

第4回県立高等学校将来構想審議会 会議録

平成30年4月19日作成

- 1 会議名 第4回県立高等学校将来構想審議会
- 2 開催日時 平成30年3月26日（月）午後2時から午後4時まで
- 3 開催場所 宮城県行政庁舎4階 特別会議室 仙台市青葉区本町3丁目8-1
- 4 出席者 別紙「出席者名簿」のとおり〈傍聴者0名〉
- 5 概要 以下のとおり
 - (1) 開 会
 - (2) あいさつ（西村理事兼教育次長）
 - (3) 議 事（議長：本図会長）
 - ① 高校教育改革の取組について
資料1により説明
（説明者：佐々木教育企画室長）
 - ② （仮称）第3期県立高校将来構想答申中間案骨子（案）について
資料2，資料3により説明
（説明者：佐々木教育企画室長）
 - (4) そ の 他
 - (5) 閉 会

1 開 会

【司会】

ただいまから、「第4回県立高等学校将来構想審議会」を開催いたします。

はじめに、会議の成立について御報告申し上げます。本審議会は、20名の委員で構成されておりますが、本日は、桂島晃委員、菊地直子委員、境直彦委員、佐藤陽委員、田端健人委員、御手洗瑞子委員から所用のため欠席する旨の御連絡を頂戴しております。従いまして、14名の御出席をいただいております。県立高等学校将来構想審議会条例第5条第2項の規定により、過半数の委員が出席しておりますので、本日の会議は成立しておりますことを御報告申し上げます。なお、本日の会議は、前回に引き続きまして公開により開催することとしますので、御了承願います。

続きまして、宮城県教育庁理事兼教育次長 西村晃一から御挨拶を申し上げます。

2 挨 拶

【西村理事】

ただ今御紹介いただきました教育庁理事兼教育次長の西村でございます。高橋教育長に急遽所要ができて、私が代理で御挨拶させていただきます。

本日は、年度末の大変お忙しい中、御出席をいただきましたことに御礼申し上げます。

これまで3回の審議会がございました。その中では「高校教育改革の取組の成果と課題」や「本県高校教育の目指す姿」、「高校教育改革の取組」などにつきまして、委員の皆様から様々な御意見を頂きました。また、今後の県立高校の在り方検討の参考とすることを目的として実施いたしました「県立高校に関する調査」の結果も踏まえながら、次期県立高校将来構想の検討を進めてきたところでございます。

次期将来構想の中に明記することとしております「本県高校教育の目指す姿」につきましては、概ね前回の審議会でご了承いただいたものと考えております。この目指す姿の実現に向けて、情報化や国際化の進展など様々な社会環境の変化を見据えながら、高校生がたくましく生きる力を培い、地域とともに魅力と活力ある高校教育を展開していくことを高校教育改革の大きな方向性としていきたいと考えております。

本日の会議では、高校教育改革の取組のうち、「少子化の中での高校の在り方（地区別の高校配置の方向性）」を議題としております。前回は適正な学校規模を定めることなどについて議論していただきましたが、今回は、各地区の今後10年間の高校配置の在り方について取り上げたいと思います。また、今まで賜りました御意見等を踏まえて、構想の全体像となります答申中間案の骨子（案）をとりまとめましたので、こちらについても御意見を頂戴したいと考えております。

来年度策定する次期構想がよりよいものとなりますよう、様々な視点から貴重な御意見を頂戴いたしたく、よろしく願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。どうぞよ

ろしくお願いいたします。

【司会】

それでは、議事に移らせていただきます。ここからは本図会長に議事進行をお願いいたします。

3 議 事（議長：本図会長）

（1）高校教育改革の取組について

【本図会長】

それでは、議事に入りたいと思います。

本日は次第のとおり、議事が二つございます。まず、（1）高校教育改革の取組についてですが、前回の「少子化の中での高校の在り方」に関して、地区別高校配置の方向性について議論していきたいと思います。次に（2）の答申中間案骨子（案）について事務局から資料が示されておりますので、こちらについて議論していきたいと思います。それでは、（1）高校教育改革の取組について、事務局より御説明をお願いいたします。

【事務局（佐々木教育企画室長）】

教育企画室長の佐々木でございます。どうぞよろしくお願いいたします。議事（1）の高校教育改革の取組についてでございます。資料としては、資料1を使って説明させていただきますが、その前に、本日お配りしております参考資料を御覧いただきたいと思えます。こちらの参考資料につきましては、これまで3回開催いたしました審議会において委員の皆様から頂きました御意見をテーマ別にまとめたものとなっております。こちらの資料の3ページをお開きください。詳細な説明は省略させていただきますが、第3回審議会で議題といたしました「少子化の中での高校の在り方」について、「仙台市周辺とそれ以外の地域の違い」やその現状を踏まえた「地域の学校の充実」或いは「地域との連携」につきまして皆様から御意見を頂きました。これらの貴重な御意見を踏まえまして地区別の高校配置の方向性を資料1としてまとめたものでございます。

それでは、改めまして資料1「少子化の中での高校の在り方（地区別の高校配置の方向性）」を御覧いただきたいと思えます。前回の審議会では、「少子化の中での高校の在り方」に関して、適正な学校規模について4から8学級を目安とすること、ただし、地域の実情に配慮した例外的な取扱いについても検討することとしたところでございます。

本日は、前回の審議会でお渡ししております「基礎資料：地区別公立高校配置の状況」として、データのみお示ししておりました地区別の高校配置の方向性について御説明いたします。前回お配りしておりました基礎資料を適宜御覧いただきながらお聞きいただきたいと思えます。

資料1ページを御覧ください。まず、南部地区の方向性についてでございます。まず、(1)の南部地区の現状は、学校数は分校を含めて10校、学校規模は4学級以上が6校、3学級以下が4校であり、平均学級数は3.9学級となっております。学科構成としては、全体に占める普通科の割合は41%となっておりますが、この割合は他地区より低い傾向にございます。また、資料記載の各学科が設置されている状況です。なお、平成35年4月に柴田農林高校と大河原商業高校を再編しまして新たな職業教育拠点校を設置いたしますが、公立高校では県内初となるデザイン系学科を設置することとしております。

地区内の今後の中学校卒業生数の推移ですが、平成31年から平成40年までの10年間で281人、率にして18.9%減少する見込みとなっております。今後も減少が続くことから、更なる対応が必要ではないかと考えているところです。

その他の欄にございますが、南部地区の特徴として、柴田農林高校川崎校に、平成28年4月から岩沼高等学園川崎キャンパスを併置し、インクルーシブ教育の推進に向けた取組を進めてきているところでございます。また、定時制課程に関しては、地区内に多部制の定時制高校がないという状況でございます。

(2)にある10年間の方向性ですが、ポイントといたしましては、学科選択の幅は確保されておりますが、3学級以下の学校が4校と多くまた充足率が低いこと、加えて再編に伴う学級減が予定されているものの、中学校卒業生数の減少を考慮すると更なる定員調整へ向けた検討が必要であるとしております。四角の囲みの中になりますが、「中学校卒業生数の減少に対応した定員調整が必要であるが、地域ニーズも踏まえて、様々な役割を担う学校に転換することも視野に再編を検討。」とまとめております。

続きまして、2ページの中部地区の状況について御説明いたします。(1)の現状ですが、学校数は、仙台市立高校を含めて29校でございます。学校規模は、すべて5学級以上となっており、平均学級数は6.9学級となっております。学科構成においては普通科が70%以上を占めており、総合学科や普通系、職業系の専門学科も多様に設置されている状況でございます。地区内中学校から地区内の全日制公立高校への進学率は56.3%であり、交通の便が良いことなどから他地区との出入りが多い状況となっております。今後の中学校卒業生数の推移につきましては、10年間で348人、率にして3%減少する見込みとなっております。減少傾向にあるものの、他地区に比べてその率は低いものとなっております。

(2)の10年間の方向性ですが、ポイントとして、他地区に比べて学校が集中して所在し、学校選択及び学科選択の幅は広い状況に加えて学校規模も大きく、充足率もほぼ100%となっております。ただし、時代の変化に対応した高校教育を展開していく必要があることから、「充足率は安定しているが、社会的ニーズに対応した学科改編等についても検討。」とまとめております。

次に3ページの大崎地区でございます。(1)の現状ですが、学校数は11校であり、4学級以上が5校、3学級以下が6校と小規模校が多い地区となっております。平均学級数は3.9学級です。学科構成ですが、普通科が56%を占め、その他総合学科や農業系、

工業系，商業系，家庭系の専門学科が設置されており，学科選択の幅は確保されている状況でございます。今後の中学校卒業生数は，10年間で247人の減少，率にして13.3%の減少の見込みとなっております。

(2)の10年間の方向性ですが，他地区に比べて小規模校が多いことに加え，充足率も低い状況にあり，早急に対応していく必要があります。方向性としては，「地区が東西に広く，交通事情や地域特性も異なることから，いくつかのブロックに分けて学校の在り方について検討した上で，再編等の対応が必要。」とまとめております。

続きまして4ページをお開きください。栗原地区の状況です。学校数は4校あり，4学級以上及び3学級以下がそれぞれ2校ずつとなっております。学科構成については，普通科が50%を占めており，その他総合学科と商業科が設置されています。地区内進学率は68.2%となっております。また，中学校卒業生数の推移ですが，10年間で109人，率にして20%の減であり，気仙沼・本吉地区に次いで県内で2番目に多い減少率となっております。

その他の欄に記載がありますが，栗原地区は，県内で唯一定時制高校のない地区でございますが，大崎地区にある田尻さくら高校が定時制への進学者の主な受け入れ先となっている状況でございます。

(2)の10年間の方向性ですが，学校数が4校と少ないものの広い市域に分散していること，また学科選択の幅が限定的であるものの，4校規模で学科の充実を図ることは難しいことなどから，「市域が広いことから通学への影響を考慮するとともに，地区の枠を越えて学習環境の充実に配慮した学校の在り方を検討することが必要。」とまとめております。

続きまして5ページの登米地区でございます。学校数は3校であり，6学級規模が2校，3学級規模が1校となっております。登米地区では，いずれも普通科の佐沼高校，登米高校のほか，平成27年度に開校した登米総合産業高校に工業系の3学科，農業科，商業科，普通科及び福祉科が設置されており，学科選択の幅は広い状況にあります。地区内進学率は63%であり，中学校卒業生数の推移については，10年間で116人，率にして16.2%の減となっております。

(2)の10年間の方向性ですが，地区内の学校数が3校と県内で最も少ない一方で市域が広いこと，また，充足率が低くなっており，学校の活性化を図る観点から，栗原地区と同様の記載ですが，「市域が広いことから通学への影響を考慮するとともに，地区の枠を越えて学習環境の充実に配慮した学校の在り方を検討することが必要。」とまとめております。

続きまして6ページをお開きください。石巻地区でございます。学校数は石巻市立高校を含めて8校でございます。全校が4学級以上で学校規模は比較的大きい状況です。学科構成は普通科が半数を占めており，他に総合学科，工業系学科，商業系学科，水産系の専門学科が設置されております。地区内進学率は80%と県内においては気仙沼・本吉地区と並び高い状況です。中学校卒業生数の推移については，10年間で278人，率にして

16. 7%の減となっております。

(2)の10年間の方向性ですが、地区内の学校規模が比較的大きく、学科バランスも取れている状況ではあるものの、復興や地域振興の観点から地域産業に応じた学びを深めることなどを考慮し、「社会的ニーズに対応した学科改編等についても検討。地域の産業特性等に応じた専門学科等での特徴的な取組の展開を検討。」とまとめております。

最後に7ページの気仙沼・本吉地区でございます。気仙沼高校と気仙沼西高校の再編により、平成30年度の学校数は4校となります。学校規模は6学級が1校、3学級が3校であり、学科構成は普通科が53%を占めている状況です。その他、総合学科や工業系学科、商業系学科、水産系学科が設置されております。地区内進学率は県内で最も高く、80.5%となっております。今後10年間の中学校卒業生数の推移については、204人、率にして32%の減少となっております。

その他の欄になりますが、気仙沼・本吉地区では、県内唯一の連携型中高一貫校である志津川高校が所在しております。

(2)の10年間の方向性ですが、学校数が4校と少ないこと、そのうち3校が3学級以下であること、ただし、学校が広い市域に分散して所在しており、また他地区への通学が困難なことから、地区内での教育環境の充実を図る観点から、「地区の区域が南北に長い地理的条件や公共交通機関の状況から、他地区への通学が困難である地域特性を考慮した学校の在り方を検討。」とまとめております。

なお、当該地区は現在の構想では本吉地区という名称となっておりますが、今後の10年間の構想を策定するに当たり、地域性等を考慮して「気仙沼・本吉地区」として記載しておりますことを申し添えます。

資料1の説明は以上になります。

【本図会長】

ありがとうございました。ただいま御説明のありました、少子化の中での高校の在り方、地区別の高校配置の方向性について、前回の意見を踏まえまして、数字だけを一人歩きさせないでほしいというような、地区別に丁寧に見ていきたいということが総意だったかと思うのですが、それを受けての事務局からの対応でございました。

皆様から御意見等いかがでしょうか。関係の地域の実情などよく御存知の方もおられると思いますので御意見御感想等ありましたらよろしくお願いたします。

【本明委員】

利府町教育長の本明でございます。前回までの検討課題を入れていただいて、作っていただいたものと思います。質問させていただきたいことは、かなり生徒数の減少傾向が大きく、それに見合った学校を配置していただいていると思うのですが、私立学校の入学の

生徒数とか配慮されているかと思うのですけれども、こういった形で配慮されているかということをお聞きしたいと思います。

【事務局（佐々木教育企画室長）】

高校生の収容対策につきまして、私立学校の連合会側と協議会を設置しており、その中で将来を見据えた、生徒の減少に見合った学校の適正運営という点でいろいろな意見交換をさせていただいております。公私協調して収容対策に取り組むことということで一定の合意といいますか、意見調整を行っているところでございます。特に中部地区におきまして、私立高校が多い状況にございますことから、こちらのエリアを中心としまして現在様々な意見交換をさせていただいている状況でございます。

【本明委員】

ありがとうございました。地域によっては私立高校がないところもあり、苦慮されるところが出てくるのではないかと感じています。また、仙台市内になりますと私立学校が集中しておりますので、入学者数など人員的なものが必ず生じてくるだろうなと思いましたが、質問させていただきました。ありがとうございました。

【本図会長】

ありがとうございました。それでは庄子委員。

【庄子委員】

私も同じことを考えておりました。私立学校とのバランスというものも非常に大事なかなと感じておりました。たとえば石巻地区は私立高校がありませんから、おそらく地区の全日制公立高校への進学率が高く出ているのかなと思っておりました。できれば進学者の状況として、地区内への公立高校への進学率とともに、地区外の私立高校への進学率などのデータがあると、こういった動きがあるのかというところが分かってくるし、学校配置についての検討に使えるものと思いますので、よろしく願いいたします。

【事務局（佐々木教育企画室長）】

前回お配りしております基礎資料でございますが、こちらの18ページに石巻地区におけるデータ、進学率をお示ししております。18ページの一番下でございます。地区内市町村別中学生の進学状況の表でございます。地区内で先ほど80%の進学率と申し上げましたが、他地区への進学状況につきましては、この表の右側にありますような内訳となっております。どの私立高校に行っているかは別にしましても、数値としてこのようなデータをおさえております。これは石巻だけではなく他の地区につきましても同様にまとめておりますが、こちらも参考に御意見を頂ければと思います。

【本図会長】

ありがとうございました。他はいかがでしょうか。

【遊佐委員】

貞山高校の遊佐です。栗原地区と登米地区についての質問ですが、地区の枠を越えて学習環境の充実に配慮した学校の在り方というところは、具体的にはどのように考えているのでしょうか。この地区はただでさえ学校数が少ない上、広域で通学が不便なところもあるので、その辺のところをお聞かせください。

【事務局（佐々木教育企画室長）】

正直申し上げまして悩みどころであると思っております。例えば資料1の4ページにあります栗原地区ですと、今後10年間で109人減少となっておりますが、学級数、1学級40人と見積もりますと、3学級減らさなければならないという規模での生徒数の減少が見込まれております。そうしますと、栗原地区には4校しかなく、そのうちの2校は既に3学級以下になっているということなので、この数を調整するために、学級減だけで対応して良いのだろうかということが悩ましいところでもあります。とはいえ市域が広いということもこの対応を検討する上での大事な視点ですので、地区の中だけで完結するようなことを検討して良いのだろうか、もう少し幅広に目を向けた検討が必要なのではないかということで悩んでいるところでございます。同様なことが登米地区にも言える状況でして、同じく116人の減少となりますと、地区におけるインパクトは大きい、とはいえ学校は3校しかないということなので、特に具体的に今どうするということは持ち合わせていないものの、ここを踏まえた上での検討をしなければならないということでの問題提起として捉えていただければと思います。

【遊佐委員】

ありがとうございました。この地区で勤務した経験があるもので、この地区は他地区に抜けるだとか、栗原地区だと新幹線を使って仙塩地区にという流れもあったり、登米地区だと鉄道を使って他の地区にということもあったりして、非常に生徒の確保に苦慮している。学校として一生懸命考えているのだけれども、抜けていってしまうという状況が続いております。その辺のところも考慮していただきながら、検討していただければと思います。

もう一つ、全県一区になってからの地域の生徒確保にかなり苦慮しているということも、検討の中に入れていただければありがたいと思います。よろしく願いいたします。

【本図会長】

ありがとうございました。御検討よろしく願いいたします。他はいかがでしょうか。

【大内委員】

登米総合産業高校の大内でございます。本校は平成27年度に設置されて、先日の入試でも2学科は定員をオーバーしたのですが、その他の学科は定員割れということでした。明日、入学者の準備登校があるのですが、定員240名のところ196名の新生入生という状況です。やはり学校を運営する者としては、もっと魅力を外に発信して生徒確保に努めなければいけないと思っております。栗原地区に約10%、県内の私立高校に約9%の生徒が流れているので、地域の子供たちは地域で育てたいと思っておりますが、未だ中学校に魅力が発信されていなくて、残念ながら子供たちを市内に引き留めておくことが出来ていない状況です。登米市さんにも協力いただいて、いろいろな地区から来られるようにバス路線など大分整備していただいたのですが、それでもバス1本逃すと登校できないという路線もありますので、その辺を更に検討しながら、是非生徒確保に努めて参りたいと思っております。

【本図会長】

是非頑張ってくださいと思います。他いかがでしょうか。

【高橋委員】

緑水亭の高橋でございます。中部地区に関しまして、10年間の方向性の最後に社会的ニーズに対応した学科改編等についても御検討されるということなのですけれども、具体的にどのような学科が増えていくとか、例えばどういう分野を増やしていきたいかという方向性があるかどうかということと、これは地元の進学や就活などに関わってくるところだと思っておりますが、社会性を身につけるとい意味でどのような学科編成を私たち受け入れる側として期待していったら良いのかなというところについて質問いたします。よろしくお願いたします。

【事務局（佐々木教育企画室長）】

具体的にどういった学科をどの学校にいうところについては、現在明確に定めたものではなくて、前回の審議会におきまして、新しい学科の設置に関する目安といいますか見方についてはお示したところでございますので、それを踏まえて対応していくことになるかと思っております。中部地区におきましては、資料1の2ページにもありますとおり、率としては3%の減というものではあります。絶対数で言えば348人というのは県内で一番減少数の大きい地区でございますので、単にそれに見合った対応だけではなく、難しい面もあるのではないかと考えております。さらに先ほどもありましたとおり、多くの私立高校が所在している地区でもありますので、そういった部分も含めた対応を今後見据えていきたいと考えております。そういった減少に対応する過程におきまして、新たな学びの方向性についても、検討していければと考えております。

【本図会長】

ありがとうございました。大崎地区について、少し皆様から御意見を頂けたらと思うのですが、今回やや踏み込んでの御提案が事務局よりされておりますけれども、いかがでございましょうか。

【片瀬委員】

質問なのですけれども、中部地区の人数の確認なのですけれども、高専はどうなっているのでしょうか。こちらには入っていないと思うのですが。数的にはこれから定員を増やすとか減らすとかそういう情報はございますか。

【事務局（佐々木教育企画室長）】

高専につきましてはこの中に入れておりません。県立高校としての方向性を現在考えているところなので、公立で同じ年代の子供を預かっているという意味では共通するとは思いますが、設置者としての県の視点で資料としてまとめているところではございましたので、そこまでは踏み込んではいないところでございます。

【片瀬委員】

中央の方では工業系の学校が沢山あるのですが、地方ですと、たとえば古川にも工業高校があるのですが、少しずつ中身が工業高校よりも普通高校に近い形のものになってきているように感じます。そうでないと生徒さんもなかなか入らないというようなことで、一方で、今、県北では自動車関連の企業が沢山いらっしやって、人の取り合い状態になっているところがあります。そういうことを考えると県北の工業高校の充実強化をお願いできればと思っておりました。これは大崎だけでなく栗原地区も登米地区も同じような状況ではないかと思っておりますので、そういった検討をしていただければと思います。

【本図会長】

今の時点で、何かございますでしょうか。

【事務局（佐々木教育企画室長）】

今後の検討ということになると思いますが、適正な学校規模、学校運営というところも一方では欠かせない視点であるということが事実かと思えます。説明の中で、東西に広くということをおし上げましたけれども、古川エリアを市役所を中心に東西と分けて見たときに、東の方では松山、鹿島台商業、南郷といったところが3学級以下でございまして、同じく西でいうと岩出山、加美農業、中新田も3学級以下ということで、かなり幅を広くしたエリアの中にそのような学校があるということも、今お話のありました視点も踏まえて検討が必要であると課題意識として持っているところです。

【本図会長】

確かに古川工業高校ですと充足率は100%で、専門高校別に充足率を踏まえて検討していただけると良いのかなと思います。

【事務局（佐々木教育企画室長）】

次にまたそのような視点で御説明させていただきたいと思います。決して大崎地区に限ったことではなくて、ある程度全県で見たバランスを含めた検討になろうかと思っておりますので、そういった点での検討を深めてまいりたいと思っております。

【本図会長】

ありがとうございました。他いかがでしょうか。

【柴山副会長】

少し戻る発言になるのですが、先ほど遊佐委員から御質問のあった、地区の枠を越えた学習環境の充実ということについて。これは、学区制や生徒数確保についての努力がすごく重要であると思うのですけれども、人口減の中でどうしても生徒数が少なくなる方向になると思うのですね。その際に法整備などがきちんと行われなければならないのですけれども、ICT環境を使った遠隔授業のような、あくまでも可能性ですが、そういうことも視野に入れられての文言かと読んだのですが、その辺りのところはいかがでしょうか。

【事務局（佐々木教育企画室長）】

例えばそれぞれの学校における教科指導の面でICTを使うといった側面もあれば、ICTを使った遠隔授業というものもあって、ICTの使い方というものが広がっていくであろうという認識でございます。栗原地区では例えば定時制高校がないので、それについての対応を議論していく上では、場合によりましてはICTの活用もあり得ると思えますし、もし仮に役割の違う学校、このあと資料に出てまいりますけれども、例えば学び直しの観点での学校運営というところも含めてこの地区で検討するということになれば、当然ICTの活用については出てくる切り口と思っております。ただし具体的には現段階においてこの地区でどうこうするというについては煮詰めきれていないところですので、皆様からの御意見を賜ればと思っております。

【本図会長】

この件については、全国を見れば義務教育の場面で起きていることで、過疎地の義務教育についてICTを利用して共同学習を進めていくとか、そういう試みもいろいろ出ていくと思います。引き続き先進事例を御検討いただけたらと思います。どうぞよろしく願いいたします。他にいかがでしょうか。

【伊藤（宣）委員】

今、御意見を聞きながら、ずっと思っておりました。やはり少子化の問題、数の問題という観点から学校の勢いを減速させていくということは、非常に大きな問題があると思います。宮城県全区というようなこの入試制度を採用したときも、各学校が特色ある学校、そして時代のニーズに応えられる学校、そういうことを目指しながら、この制度が誕生したのではなかったかと思っております。それともう一つは中学校の生徒たちについてです。中学校の生徒たちが高校の学び、宮城県の高校の学びをどれだけ理解しているのかというところでは、学校教育の内容を広く公表するというか、伝える場所、そういうことも必要ではないかと思えます。

それから時代のニーズに応えるという点では、大変大きく変化を始めていますね。たとえば来年度、この4月に入学する高校一年生から高大接続の第一期生を出していくという時期に入っていきます。そうすると、大学に入るための調査書の内容、これの取扱いがICTでもってやっていかなくてはというような変化が高校現場に強いられているというところがあって、やはり子供たちと保護者の方がたに、学校教育環境をより丁寧にお伝えするということが必要ではないかと思えます。

それから地域というところなのですけれども、地域を越えて、あの学校へ行ってみたいというような魅力ある学校づくりが必要な時代になっているのではないかと思えます。

【本図会長】

ありがとうございました。学校の成果の公表という点では引き続き大変大事な点だと思いますので、よろしくお願ひしたいと思えます。それでは、今回のこの地域別の検討についてもあくまでも方向性ということですので、また細かいところが明らかになったところで戻っていただくことも可能と思えます。ひとまず方向性ということでは、ここで御了解をいただきまして、次に進ませさせていただきたいと思えますがよろしいでしょうか。

それでは続きまして、議事（2）の第3期県立高校将来構想答申中間案骨子（案）について事務局から御説明をお願いいたします。

（2）（仮称）第3期県立高校将来構想答申中間案骨子（案）について

【事務局（佐々木教育企画室長）】

それでは議事の二つ目の次期県立高校将来構想答申中間案骨子（案）について説明をさせていただきます。資料としては、資料2と資料3を使います。その前に先ほども御覧いただきました参考資料を今一度御覧ください。

皆様から頂いた御意見、内容につきましては、この資料の中にもまとめているところがございますが、第2回及び第3回の審議会にて議題としておりました、1ページから2ページの本県高校教育の目指す姿では、多様性の尊重について様々な御意見を頂いたところでは、4ページ目にあります社会的ニーズに応じた高校、学科の在り方では、高校と企業

の新しい連携の形や現在ある学科の充実などにつきまして、御提言を頂戴したところでございます。また資料の5ページの学びの多様化についての対応におきましては、学校教育の中での学び直しの実現などについて様々な御意見を頂いたところでございます。こうした多くの貴重な御意見につきまして、今回の資料に反映させていただいたところですが、本日はこれまでの審議を踏まえてまとめた答申中間案の骨子（案）を資料2と資料3を使って説明させていただくという流れで御覧いただければと思います。

まずは、資料2の「答申中間案の構成」を御覧ください。第2回目の審議会において、将来構想の全体像とそれぞれの検討項目との関連性を明らかにするため、「(仮称)第3期県立高校将来構想策定の視点」をお示ししておりました。これまでの審議会では先ほど申し上げたような、幅広い御意見を頂きましたので、そのイメージを図式化いたしまして、答申中間案の構成を作成したものでございます。

まず、大項目1として「高校教育を取り巻く現状と課題」、次に大項目2として構想の趣旨や基本的な考え方を記載する「新たな県立高校将来構想の策定について」を並べております。

大項目の一つ目と二つ目を受けまして、中央の左側にあります大項目3の「本県高校教育の目指す姿」及びその右側にある大項目四つ目の「高校教育改革の取組」が本答申中間案の核となる部分です。「本県高校教育の目指す姿」につきましては、次期構想におきまして新たに構想に明示するものとして、これまで第2回及び第3回の審議会において御議論いただいた項目になります。この目指す姿を実現するための具体的な施策として大項目4の「①宮城の未来を担う人材の育成」と「②宮城の未来を拓く学校づくり」を人づくりの方向性、学校づくりの方向性それぞれに対応するものとして位置付けるものでございます。

最後に大項目5の「将来構想の推進」でございますが、構想を確実に推進していくための考え方及び手法を記載する項目として掲げております。①「地域社会との協働」及び②「実施計画の策定」について記載するというものでございます。

なお、この資料の上段部分に欄を設けていますが、構想にサブタイトルを付けることを予定しております。本県で推進している志教育の「志」、地域と高校との連携の促進の観点から「地域」、宮城県の未来を担う人材育成の観点から「次代を拓く」などをキーワードとして想定しておりますが、次回審議会までには改めて案としてお示ししたいと考えております。これらが全体像となります。引き続き資料3の説明に移ります。

資料3は将来構想中間案の骨子案となります。ここでは中間案に記載する内容を項目立てして記載しております。言うなれば中間案の目次のようなものとして御覧いただければと思います。

まず大項目1の「高校教育を取り巻く現状と課題」ですが、こちらは第1回の審議会でも議題といたしました「宮城県の高校教育の現状について」及び第2回審議会でも議題とした「高校教育の在り方について」のうち「高校教育改革の取組の成果と課題」に該当する部分ということになります。中項目1は「本県の高校教育改革の取組」として、現在の構想

における取組の方向性などを示したいと考えておりますが、現構想期間中の主な動きとしては、「学力の向上」、「キャリア教育の充実」、「地域のニーズに応える高校づくりの推進」、「教育環境の充実・学校経営の改善」、「東日本大震災からの教育の復興に向けた取組」の5つの取組を整理して記載することとしております。

次に中項目の二つ目として「高校教育改革を取り巻く現状」と記載しておりますが、東日本大震災からの復興や人口減少社会の到来と地方創生の推進、不登校や中途退学者の増加、ICTの進展、グローバル化の進展及び国の動向などについてこの中で概観いたします。

これらを踏まえ中項目の3「課題」ですが、これまでの本県の取組や高校教育を取り巻く現状を踏まえて現在の高校教育における課題について記載いたします。「教育内容の充実に関すること」、「教育環境の整備に関すること」、「学科編成及び学校配置に関すること」の3項目に分けて記載することを予定しておりますが、その内容につきましては、例えば、これまでの県立高校に関する調査結果や審議会での議論の中に出てまいりましたコミュニケーション能力や、職業意識に関すること、学び直しに対するニーズ、仙台市周辺とそれ以外の地域の教育環境の違いなどが挙げられるかと考えているところでございます。

次に大項目の2「新たな県立高校将来構想の策定について」ですが、こちらでは、構想策定の趣旨とともに今後10年間の高校教育改革の方向性を明記することとしております。

2ページを御覧ください。大項目の3「本県高校教育の目指す姿」についてです。ここから先ほど申し上げましたが、構想の核となる部分ということです。これまでの構想には記載の無かった、目指す姿について、次の構想に明記するものとして議論を重ねてまいりました。前回からの主な修正点としましては、前文の一行目、「主体的・対話的」の次に御意見をいただきました「深い」という文言を追加したところでございます。

中項目1の「目指す人づくりの方向性」では、「自己実現、社会貢献できる人づくり」、「震災からの復興と郷土の発展を支える人づくり」、「グローバルな視点を持ち、多様な人々と協働して新たな価値を創造できる人づくり」を挙げております。また、中項目2の「目指す学校づくりの方向性」では、「多様な個性や能力を最大限に伸ばす学校づくり」、「社会のニーズを踏まえた特色ある学校づくり」、「地域に根ざし、信頼され、貢献できる学校づくり」を方向性として示しております。

次は大項目4の「高校教育改革の取組」についてです。中項目の1「宮城の未来を担う人材の育成」ですが、こちらは、大項目3の「目指す人づくりの方向性」を受けての記載と位置付けているものですが、審議会においては今回初めてお示しする内容となります。

「(1) 教育内容の充実」では、志教育を通じたキャリア教育の更なる推進、課題解決能力やコミュニケーション能力の育成、本県独自の取組である「MIYAGI Style」による教科指導におけるICT活用の推進、国際教育の推進、震災を経験した本県ならではの防災教育や安全教育の推進を項目として挙げております。

また、「(2) 教育環境の整備」では、現在、登米総合産業高校で実施している地域パー

トナーシップ会議の設置などによる地域との連携・協力の推進や関係機関との連携の推進、国際バカロレア認定校などの国の制度等の活用、計画的な教職員採用や計画的な施設・設備の整備、今後の部活動の在り方などを挙げているところです。

次に中項目2の「宮城の未来を拓く学校づくり」ですが、こちらは、大項目3の「目指す学校づくりの方向性」に対応した取組内容になります。まず、「(1) 少子化の中での高校の在り方」ですが、こちらでは主に中学校卒業生数の減少を受けての学校の規模や配置、また活力ある学校づくりの取組について取り上げております。「①適正な学校規模」につきましては、前回の審議会でも提示申し上げましたとおり、4～8学級を目安とすること、ただし、地域の実情や学科バランスに配慮した例外的な取扱いも検討することとしております。「②学校配置の考え方」では、教育環境の確保とともに、通学への影響や地域内での学科バランスなどの地域の実情への配慮を項目として挙げております。なお、〇の三つ目の「地区別の高校配置の方向性」につきましては、先ほど御説明いたしました資料1の内容を記載する箇所として位置付けているところがございます。

「③活力ある学校づくりの取組」では、活力維持の方策として、例えば学級規模や募集方法を検討すること、また新たな学科等の検討などを項目として挙げているところがございます。

次に「(2) 社会的ニーズに応じた高校、学科の在り方」ですが、「①学科・コースの在り方」として、「ア. 普通系学科」においては、適切な選択科目の充実や特に単位制高校でのガイダンス機能の充実などとしております。「イ. 総合学科」では、多様な系列や適切な選択科目の設置、職業体験的な活動の充実、また、「ウ. 専門学科」では、6次産業化の取組の推進や多様な進路希望への対応、地域産業との連携の充実のほか、特色ある学科の設置検討などを挙げております。

4ページを御覧ください。「②他機関との連携」になりますが、「ア. 地域の教育機関との連携の在り方」として、中学校との連携のほか、私立高校やその他の教育機関との連携・協力の推進を挙げております。また、高大接続の観点も含めてイの大学との連携、地域とともにある高校づくりの観点から、ウの地域や企業等との連携についても記載していくこととしております。

次に「(3) 学びの多様化への対応」ですが、大別して「①定時制課程・通信制課程の在り方」と「②特別な支援を必要とする生徒への対応」としてしております。まず①では、「ア. 定時制課程の在り方」として、不登校や中途退学などの多様なニーズの受け皿としての体制整備を行うとともに、全県的なバランスを考慮した学校配置を項目として挙げております。さらには、地域の生涯学習の場としての活用や今後設置が予定されている夜間中学校との連携についても記載することとしております。

「イ. 通信制課程の在り方」では、県内公立唯一の通信制課程を有する美田園高校を核として、スクーリング拠点の増設や協力校の設置等による学習環境の整備、定時制高校等との連携の推進等を挙げているところです。「ウ. 学び直しへの対応」では、多様な学びのニ

ーズに応える学校づくりや体制整備，カリキュラム上の対応も含めた基礎からの学びの充実，学校医やスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携の推進を記載していくこととしております。

次に5ページになります。「②特別な支援を必要とする生徒への対応」ですが，大きく「通級指導の充実」と「インクルーシブ教育システムの充実」に分けております。「通級指導の充実」では，来年度から開始する通級指導のモデル事業の実施を踏まえて，その制度の充実や教職員の専門性の向上，普及啓発の観点から特別支援教育への理解の推進や高校や中学校との連携の推進などを挙げているところです。また，「インクルーシブ教育システムの充実」では，高校と特別支援学校との交流や連携の推進のほか，地域の関係機関との連携の推進や環境整備を挙げているところでございます。

最後に大項目5の「将来構想の推進」ですが，構想を確実に推進していくための考え方及び手法を記載する項目であり，地域とともにある学校づくりや構想を推進していくための実施計画の策定などについて記載することとしております。

説明は以上のとおりとなります。

【本図会長】

ありがとうございました。それでは皆様から御意見を頂きたいと思いますが，いかがでございましょうか。

【加藤委員】

高等学校長協会の加藤でございます。資料に目を通してみての感想ですが，少し議論を逆戻りするような発言もするかもしれませんが，お許しいただければと思います。まず一つは，資料2の構成のところなのですが，これは今までの議論で全然問題になっていなかったところなのですけれども，高校教育改革の取組で，①，②を改めて読んだときにふと思ったのですが，「宮城の未来を担う人材の育成」，「宮城の未来を拓く学校づくり」で良いのかなと。宮城に，本県にというところは必要なところなのですけれども，育成する，目指すものとして「宮城」と限定して良いのかなとふと感じたところです。もっと広い視野を意識させるという観点というものは高校教育で必要な点ではないのかなと。これは私の感想ですので，聞き流していただいて結構なのですが，私が預かっている生徒たちに対しては，基本的に「未来を担う」とか「未来を拓く」とは言いますけれども，地域は考えるけれどもそれよりももっと上，もっと広く天下国家まで含めて考えてもらわなくては困ると繰り返し言っているものですから，この「宮城の」という限定で良いのかなというところが一つございます。

それから資料3で，今後検討されていくのだろうと思うのですが，特にお願いしたいことは，3ページの「宮城の未来を拓く学校づくり」の記載の順番です。一番最初に「少子化の中での高校の在り方」が来て，しかも①で「適正な学校規模」が来る。これはどうな

のだろうということを率直に感じました。やはり社会的ニーズに応じたなどの(2)や(3)などが来て、ただ現状として少子化という避けがたいものがあるので、現実を踏まえたところで少子化が出て来て、しかも少子化を記載するにしても、学校配置の考え方、活力ある学校づくりの取組などが先にきて、最後に適正な学校規模が来るべきではないかと。やむを得ずこれは出さざるを得ないという姿勢を示していかないと、最初に未来を拓くと言ったときに、少子化、適正な学校規模から記載するというのはどうなのだろうというのが率直な感想としてございます。御検討いただければと思います。

【本図会長】

事務局で何かありますか。

【事務局（佐々木教育企画室長）】

十分に検討させていただきたいと思います。

【本図会長】

宮城という点も、ずっとこれまでグローバルだとか、国際、世界にという気持ちも皆で共有してきたところがございますので、大変良い御指摘を頂けたと思います。御検討いただけたらと思います。他にいかがでございましょうか。

【本明委員】

今の御意見はごもっともだと思うのですが、小中学校、義務教育の中では、志教育を中心という考えで県では取り組まれているところだと思います。今の高校の立場から言うとそれで分からないことはないのですが、宮城の特徴の志教育が、高校でどのように活かされているのかということを考えなければいけないと思うのですね。小学校中学校では一生懸命志教育だと言って県の全体像を考えて動いてきています。志教育推進地区の指定も受けています。各地域です。高校へ行ってなくなってしまったというふうになっているのではということがあります。繋がりとしてどのように考えておられるのか、今後もこの志教育をずっと連携して取り組んでいかれるのかという点は、これから問題になって来るのではないかと考えております。決して宮城の志教育が、宮城だけで終わるものではないという考え方でおられると聞いておりますけれども、その点、どういうふうにお考えなのかお聞きしたいと思います。よろしくお願いたします。

【本図会長】

いかがでしょうか。

【事務局（佐々木教育企画室長）】

御指摘のありました志教育についてですけれども、発達段階に応じまして人や社会等と関わる中で、自己の果たすべき役割を考える。そういった中でより良い生き方を求めるというのが根幹にあるものでございまして、高校の段階となりますと、それが職業観ですとか勤労観と言ったものが構成要素の一部であろうかと思えます。そういったところも意識しつつ、先ほど説明いたしましたサブタイトルにも「志」を入れて強調したいというところを含めまして、これまでの取組も今一度検証させていただいた上で、より具体的な表現に落とし込めるように作業を進めてまいりたいと思えます。

【本明委員】

小中学校で取り組んでいるのはキャリア教育だけではないんです。キャリア教育は志教育の中の一部なんです。そこを誤解されると心配だと考えております。宮城県教育の全体構想をみると志教育が中心という考えではなかったかと思うのですが、今のお話では高校に行ったときに小さくなってしまいます。本県の目指す姿の中に高い志という文言があるのですけれども、志教育には3つの方向性が出ていると思えます。それがキャリアとかそういったものに絞られていないかどうか。つまり中学校から高校への流れが見えなくなっていないかというところを心配しております。その点よろしく願いいたします。

【事務局（高校教育課長）】

高校教育課長の岡でございます。高等学校における志教育ということですが、特に教育事務所を中心として、小中学校の方でも指定をいただいて、高等学校でもそこと連携させていただいて、指定校として3つの校種と一緒に検討と実施をさせていただいてるところでございます。学力状況調査の結果を見てみると、これは宮城県独自で行っているものでございますけれども、その中で「人の役に立つ人間になりたいと思っている」という高校生の気持ちというものは、継続して高まっているところです。志教育の研究指定校をセットしておりまして、事業を進めているところですし、それから宮城の高校生フォーラムを開催しまして、こういった志教育における各高校の取組等の情報の交換を行っております。それから春になりますと学ぶキャンペーン等も実施しておりまして、社会道徳的な面であるとか、それから地域貢献推進事業ということでボランティア活動を推進するというような取組もございまして、それ以外にも魅力ある高校づくりということで、これは志教育に則った形でのプロポーザル事業になりますけれども、今年度も27校で展開しております。こういった形で、義務教育の成果を活かした形で、高校生の年代でもそれを伸ばしていけるようにという取組をさせていただいております。

【本図会長】

いずれにしても、利府町のブラザーシップなど志教育の先進性をきちんと整合させるよ

うな志教育の捉え方と、学習指導要領に出てくるキャリア教育はもはや生きる力という大変大きなものでありまして、その辺りのところも整合するように答申の中で文章として示していただけたらと思います。本明先生、御懸念はよく分かりまして、そのようなところでいかがでしょうか。

【本明委員】

はい。宮城県の小中学校の子供たちを預かっている市町村の教育長としましては、志教育を推進してほしいということで進めているわけです。それが途切れることは問題だと思いますので、それが分かるような方向性を書いていただいたほうが繋がっていくのではないかと思います。どこの地域でも志教育を一生懸命やっているのだと思うのですね。それをここでプラスしていったほうが良いと思うので、文言が一番上にありますけれども、その他あまり書いていないので、繋がりを、3つの方向性をどこかで活かしていただいたほうが良いのではないかと思います。ただ先ほど言ったようにグローバル化と言いますよね。やはり宮城県でなく世界を目指せということは高校としては分かりますけれども、「みやぎの先人集」も、第2集まで完成させておられますしね、そういった意味でも、高校でも小中学校との繋がりを持っていたいただきたいという意見です。

【本図会長】

ありがとうございました。他いかがでしょうか。

【遊佐委員】

高校現場から、志教育に関することなのですけれども、年間指導計画を各校で作っております、それに基づいて生徒に対して教育をしているというところを御理解いただきたいと思います。二点質問なのですが、一点目のところは、資料3の3ページ目の「③活力ある学校づくりの取組」のところの一つ目の括弧の中、「募集方法等」のところは全国的な規模で募集をかけるようなそんなイメージなのか、新しい高校入試制度が始まる中でどうということなのかということと、もう一点は4ページ目(3)「①定時制課程・通信制課程」のところの「定時制課程の在り方」の一番最後のところ、夜間中学校との連携について、具体的にはどういったものをお考えなのかお聞かせいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

【事務局（佐々木教育企画室長）】

資料3の3ページ目にあります活力ある学校づくりの括弧の中、「募集方法等」についてですが、学科の特色を活かす上で、幅広く生徒を募集した方がよいものとして、新たに展開する場合には、そういった視点も必要ではないかということで記載しております。募集方法について、県内に限るということをやめることありきで書いているものではなく、学

校や学科の運営上必要な場合にはそういった募集の仕方も検討してはいかがかということです。

それから、4ページの定時制課程の在り方の中、夜間中学校との連携についてですが、仙台市と県教育委員会で研究会を開催し報告書を取りまとめたところですが、仙台市以外のニーズに対してどういう対応が必要かという切り口の中で、定時制高校との連携というものが謳われております。一部の定時制高校で実施しておりますけれども、科目履修制度を夜間中学校と連携することで拡充することも、必要なのではないかということです。今後の夜間中学校の設置と運営にタイアップした形での検討になろうかと思うのですが、幅を持たせてこの中に記載したということでございます。

【本図会長】

よろしいでしょうか。ありがとうございました。他いかがでございましょうか。

【柴山副会長】

柴山です。また細かい文言になるのですが、資料3の2ページの「目指す人づくりの方向性」の最初の○の部分、豊かな心、健やかな体から始まり、その次ですね、「自己実現、社会貢献できる人づくり」ということで、社会貢献の方は良いのですけれども、この「自己実現」という言葉が、先ほどの志教育の御議論を聞いていて少しマッチしないのではないかと思います。といいますのは、この「自己実現」、生涯発達心理学でマズローという人が言い始めた言葉なのですけれども、その場合は人格の成熟とか、人格投影とかそういう意味が強かったのですけれども、最近の「自己実現」というものは、夢と希望を叶えるだとか、自分の憧れの職業に就くとか、そういったニュアンスがかなり一般的なニュアンスとして使われていて、むしろここは先ほどの志教育の文脈に乗せるのであれば例えばですけども「成熟した人格」といった抽象的なきれいな言葉になってしまいますが、そういった言葉にされた方が良いのではないかと、これは感想です。

【本図会長】

よろしく願いいたします。他にはいかがでしょうか。

【大内委員】

登米総合産業高校です。以前もお願いしたのですが、登米地区では大分子供たちの数も減ってくるのですが、学校を減らすという考え方ではなくて、1クラス当たりの生徒数、定員を減らしながら、地域内でのバランスを考えた学校配置について検討していくような内容も、是非、書き込んでほしいと考えています。その内容が先ほどの「募集方法等」のところに含まれるのか、そこを聞きたかったのですが、1クラス当たりの定員減については、どこかに、是非、書き込んでほしいと個人的には思います。

【事務局（佐々木教育企画室長）】

項目的には3ページにあります活力ある学校づくりの取組の中かと思うのですが、そこまで踏み込んだ内容がこの構想の中に書けるかどうかもう少し精査したいと思います。まだ、これはというところまで行き着いていないということが正直なところでは。

【本図会長】

大変難しいところだと思いますので、引き続き御検討をお願いいたします。

【大内委員】

是非お願いいたします。

【本図会長】

他にはいかがでしょうか。私から失礼いたしますが、加藤委員が言ってくださったことと関わるのですが、今回いよいよ中間案の骨子ということで、大きなところに来ているのですが、1で高校教育を取り巻く現状と課題ということで、現状を押さえて、その課題が三つあります。「教育内容の充実」と「教育環境の整備」と「学科編成と学校配置」と。「教育内容の充実」については、これまで、おそらくは各課で着実に継続的に頑張ってきていただいていたことが入っていて、そしておそらく「教育環境の整備」のところも、今最新の進んでいるところが入っていて、実は「学科編成と学校配置」のところは、2の宮城の未来を拓く学校づくりということで、詳細に検討していると。そういう格好だと思うのですが、文章となったときに「教育内容の充実」や「教育環境の整備」のところはボリュームがあれば、あまり違和感がないのかもしれませんが、「学科編成と学校配置」が、未来を拓く学校づくりだとなりますと、先ほど伊藤（宣）委員からもありました、もっと広報とか学校評価とか外部評価も一生懸命やっていってほしいと思うのですが、学校の外形的な、「開かれた学校づくり」というようなところも入ってくるでしょうし、どうしても、何故未来を拓く学校づくりというところでこの再編ばかりなのだろうというふうに見えてしまいます。でも、それは前の方とのボリュームの関係だとも思うのですよね。今回は大変重要なところの、未来を拓く学校づくりというところで、いろいろ詳細な点を挙げていただいているので、実際の出てくるボリュームも違うと思うのですが、そういう造りで良いのかどうか、それは資料2の中間案の構成とも関わると思うのですが、学校づくりが再編とイコールで良いのかどうか。もう一度、過去の答申との関わりや、流れもあるかと思いますが、御検討いただきたいと改めて思いました。

【遊佐委員】

2ページ目の「教育環境の整備」のところなのですが、ハード面のところが、施設設備の充実だけになっていて、実は残りはソフト面であると。そうすると、私もいろいろな学

校で勤務しているのですけれども、学校毎に非常に施設設備が古く要望してもなかなか予算の面もあるので、同じ県立学校に通いながらもこの学校の施設は素晴らしいということもあったり、そこが学校の特徴と言われると、非常に辛いところがあるのですよね。魅力ある学校づくりというところで、ソフト面でいろいろと頑張っているにも関わらず、施設設備面で難を持っている学校はもっと苦しくなるのではないかなと。この辺りも何とかしていただけると現場の方は助かるかと思しますので、要望として聞いていただければと思います。お願いいたします。

【本図会長】

人材育成と学校づくりというところの分け方について、教育環境のところには施設もハードも今回は入っているような気もいたしますので。

【事務局（施設整備課長）】

施設整備課長の横山でございます。今、先生から御指摘いただいたところ、まさに問題意識として持っております、ハード整備の計画も今回の将来構想を期に連動していこうという志を持っております。そういった意味で、まさに文字通り計画的にそしてやむを得ず再編もあり得る地域につきましては、ライフサイクルコストを考えながら、どこを選択集中していくかというところ、そういったものを考えてございます。

【西村理事】

先生から御指摘ありました点については、どのようにまとめていくか、施設設備を具体的に書き込んでいけるかどうかも含めまして検討したいと思っております。

【本図会長】

ありがとうございました。今、施設整備課長さんから心強いお話をいただきました。県民挙げて応援していけたらと思っておりますが、5ページにございます特別支援のところ、これはずっと教育長からもこれからの高校の在り方で大変重要なところだと、お話を承っております。事務局案で書いてくださっているのです、ある程度見通しもあって、結構なボリュームで書いていただけそうなのですが、見通しとして取り組んでいくという土台があるものと理解しても大丈夫でしょうか。

【事務局（佐々木教育企画室長）】

はい。当然ここは欠かすことのできない視点だと思っております。こちらにつきましては、前回第3回の審議会の中でも資料5の(2)の中でも記載しておりましたけれども、ニーズの高まりですとか、そういった教育を必要としている生徒が増加している状況などをお示しさせていただいたところでした。それらを踏まえてより具体的な内容を記載するに

当たりましては、そういった考え方もできるだけ落とし込めるように作業を進めてまいりたいと思います。

【西村理事】

なお、教育委員会の来年度の組織改編の中で、現在特別支援教育室ですけれども、これを課に昇格しまして、特別支援教育につきまして充実させていきたいと考えております。

【本図会長】

大変ありがとうございます。ここも予算もかかっているところだと思いますので、頑張ってくださいと思います。他いかがでございましょうか。

【佐々木委員】

県P連の佐々木でございます。大崎市から来ておりますので、大崎地区についてですが、大崎地区は基礎資料の8ページ、9ページですよね。資料3の3ページ、宮城の未来を拓く学校づくりのところなのですけれども、どうしても大崎地区ですと普通高校が旧古川市に集中していて、特化した学科が各地区に点在している状況になっています。例えば古川から各地区に行くのはいいのですが、小さな町から小さな町へとなると大変アクセスが悪いのですね。それで、どうしても行きたい学校があってもアクセスが悪いために、諦めざるを得ないというところもあります。

また、基礎資料の8ページを見ていただくと分かるかと思うのですが、加美の色麻町にある加美農業高等学校だと多分ここはアクセスが悪くて、それも影響して充足率が悪くなっているのではないかと思います。私、岩出山に住んでおりますので、岩出山から加美農業高等学校に行っているお子さんもいらっしゃるのですが、2年生、3年生となると、保護者の送迎がないと行けないということも出てきておりますので、是非、今後アクセスの悪いところ、特色ある学校を考えると、旧古川市に持ってきていただけると、特色ある学校の良いところが生かされるのではないかと思いますので、是非御検討をお願いしたいと思います。

【事務局（佐々木教育企画室長）】

大変難しい問題だと受け止めました。資料にもありますとおり、交通事情も異なるということは、今お話のあったとおりだと思いますので、まずは幅広く検討させていただきますが、なかなか難しい面もあると正直思っております。

【本図会長】

ありがとうございました。本当に難しいところだと思います。是非御検討をよろしくお願いたします。他いかがでしょうか。

【半澤委員】

高 P 連の半澤です。この骨子案を読ませていただいて、先生方からも厳しい御指摘がありました。私は一人一人の子供を大切にするというところについては盛り込まれている部分もあったので、良かったなと安心したところがあります。やはり学校の特色というのは、その学校の進学状況や就職状況というものがあって学校選択の一つになっているのではないかと思うのです。それが一つの学校の魅力でもあるような気がします。こういったことについては、子供たちも一生懸命いろいろな情報を得ながら中学校の時に選んでいくと思いますので、是非各高校も魅力のある学校、特色のある学校をもっともっとアピールして、子供たちが情報を得られるような環境を作っていただきたいなと思っています。最後にありました特別支援関係につきましても、今回沢山書かれていたので非常に良かったなと私は思いました。

【本図会長】

ありがとうございました。他いかがでしょうか。伊藤（秀）委員お願いします。

【伊藤（秀）委員】

私も全般のお話をお聞きしまして、殆ど網羅されているのではないかとということで、何も発言する意見がなかったのですが、せっかく来ましたので、一言意見を差し上げたいと思うのですけれども、専門学科というのでしょうか、農業高校さんや工業高校さんですとかあるかと思うのですが、そういう専門学科や今後新しくできる学科について、先ほど募集方法の時にありましたけれども、どうしても専門学科の応募が少なくなっている状況のようですので、広く県外からも呼び込むような学科を作ることも視野に入れていただければと思います。美術などに特化した学校に全国から生徒が来ているということテレビで見たことがあります。人が減るのはどうしようもないので、そういったことも、これも競争になりますけれども、県外から宮城に呼び込むような、そのくらい特化した学科も良いのではないかと思います。

【本図会長】

ありがとうございました。魅力ある学校という点では是非そういったところも御検討いただきたいと思っておりますし、是非先進事例も収集していただけたらと思っております。他はよろしいでしょうか。脇坂先生いかがでしょうか。

【脇坂委員】

白石高校の脇坂です。4 ページの内容について、前回に定時制高校と通信制高校の実状を踏まえてということで、いろいろお話をさせていただいたところだったのですが、学び直しの対応ということで一項目設けていただいて、手厚く書いていただいて非常にありがた

いと思いました。それを踏まえて、可能であればというところをお願いなのですが、キーワードとして使われております「多様な学び」なのですが、もちろん趣旨は分かりますし、とても大事なことであるということ踏まえつつ、前回と重複してしまい恐縮なのですが、現場の教員及び私自身の悩みと言いますのは、その「多様な学び」という言葉の中に、意欲の乏しい者も含まれてくるという実状なのです。東京都及び神奈川県チャレンジスクールだとかクリエイティブスクールだとか、極めて崇高な理念の元に「多様な学び」というものを掲げて、いろいろな生徒が学びに来ているわけなのですけれども、そこを視察させていただくと、本当に悲しい現実があって、意欲はあるけれどおとなしい子たちは、教室の片隅で耐えている。実状がどうなっているかというところ、うちの視察してきた職員の言葉で言えば、崩壊状態に近いような授業だという、共存の苦しみです。前回の重複になりますが、そういうことをどうしても考えてしまいます。したがって崇高な理念と現実との乖離をどうやって埋めていったら良いのかというところが、悩みなのです。将来構想として打ち出されるのであれば、現場の現在の悩みを少しでも改善していくような、職員の方は大人ですから耐えれば良いわけですが、生徒が大変なのです。それをどうやって改善していけば良いかと考えた場合に、もし可能なら入れていただきたいのが、学び直しの中の多様なニーズに加えて、意欲ある生徒が段階的にステップアップして学んでいける、例えば大学入試等も含めてですね。段階的に、意欲のある生徒はどんどん学びを進めていけるのだよと、例えば通信制高校であっても、国公立大学に受かっている生徒もおりますし、定時制高校にもそういう子たちが入ってくる可能性はあるだろうと思います。そう考えた時にキーワードとして、前回もお話させていただいた、個別学習支援という、「個別」という言葉を入れることは難しいのかなとこの資料を見ていたところなのです。そういった意欲ある子たちに対しても、個別の支援で対応していけるという文言が入ってくると、意欲的な生徒たちが入ってきやすい、集まりやすいのかなということを感じたことが一つあります。ただ、マンパワー的に大変なところもあるだろうと思います。

二点目ですが、通信制課程のところと同様の観点から、〇の三つ目の〇〇の充実というところに、せっかく取り組んでおります外部サポーターを活用した個別の学習支援とか eラーニングとか、未来志向でチャレンジングに取り組んでいる内容についても、組み込んでいただければと感じておりました。

【本図会長】

ありがとうございました。是非本文の中で御検討いただきたいと思います。他にございましょうか。

【大内委員】

登米総合産業高校です。大学等との連携と記載があるのですが、専門学科では、特に小

学校や中学校と連携した取組も、とても大事なものであると思っております。農業科の子供たちが小学校の花壇の植栽を小学生と一緒に作業するとか、工業科の子供たちがものづくりを小学生や中学生と一緒にするとかは、専門高校を理解してもらう面でも大事な取組であると思っておりますし、子供たちがそういう取組を通して、大きく成長することは明らかなので、そういう内容もどこかに書き込んでいただければと思っておりました。

【事務局（佐々木教育企画室長）】

地域との連携，地域との在り方にも関連するお話かと思っておりますので，地域パートナーシップ会議なども参考にさせていただければと思います。

【本図会長】

ありがとうございます。専門学校の多くは小学校に出かけて行っていることは当たり前となっておりますので，是非そのあたり前を記載していただけたらということかと思われました。よろしくお願ひいたします。

では，そろそろ時間になりました。大きな方向性につきましては皆様に一応御了解いただいたということで，これから文章を入れていくとなおいろいろなことが見えてきて，もっとこうなのではないかということになっていくと思っておりますので，まずは文章を入れていただく作業をして，その上で議論していくことが建設的かと思っております。そのように進めさせていただきたいと思っておりますが皆様よろしいでしょうか。満場一致ということでよろしくお願ひいたします。

本日私が承りました議事については以上でございます。事務局に進行をお返しします。

3 その他

【司会】

ありがとうございました。では，次第「4 その他」に移りたいと思っておりますが，委員の皆様から何かございますでしょうか。

ないようでしたら，事務局より，資料4の今後のスケジュールについて御連絡させていただきたいと思っております。資料4を御覧ください。次回の審議会は，5月24日（木）午前10時からの開催を予定しております。

また，本日，お時間の都合でお話しいただけなかった御意見等がございましたら，お手元にお配りしております用紙に御記入の上，4月6日（金）までに事務局あてにご御連絡くださいますようお願いいたします。

それでは，閉会に当たりまして，今年度最後の審議会となりましたので，理事の西村より，御挨拶申し上げたいと思っております。

【西村理事】

皆様，長時間に渡りまして熱心な御審議ありがとうございました。感謝申し上げます。本審議会は今年度4回ございました。会長，副会長はじめ委員の皆様にはお忙しい中足を運んでいただきましてありがとうございました。なお，高等学校長協会の加藤委員，それから本日欠席でございますけれども，中学校長会の桂島委員には，今年度をもって御退職ということ伺っております。学校現場からの貴重な御意見を賜りまして御礼申し上げます。また，来年度3回開催予定でございますけれども，所属団体の都合などで交代となる委員の方もいらっしゃると思いますが，引き続きよろしく願いいたします。本日はありがとうございました。

5 閉 会

【司会】

それでは，以上をもちまして「第4回県立高等学校将来構想審議会」を閉会いたします。本日はどうもありがとうございました。